

あるかと期待したのだが、二俣から始まる両側のガレを過ぎると、沢そのものが藪の中となる。沢の大きい方へと進み、旭岳と甲子山の最低鞍部に出た。以上何もな
い沢だった。 (記・

[タイム] 南沢出合(6:45)→二俣(8:30)→登山道(9:10)

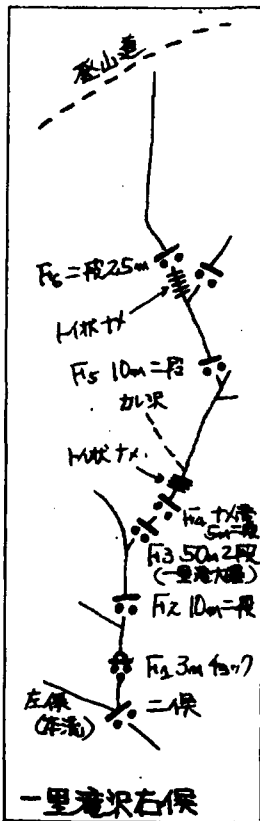
-1R

一里滝沢右俣

1983年7月24日

I

甲子温泉の手前に、左に入る林道がある。現在は所々崩壊しており、入口に有刺鉄線が張ってある。この林道を登っていくと、最初に見えてくるのが南沢で、一里滝沢出合はその100m程上流になるが、林道からは尾根にかくれて見えない。



一滝沢は、出合より滝をかけて始まる。以下二俣までの記録は左俣を進行したパーティのものをみていただくとして、ここでは二俣より先の記録のみとする。

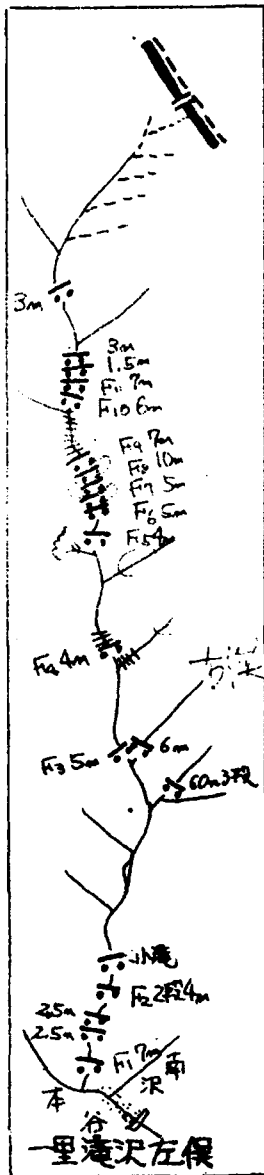
9:45二俣に着く。ひと息いれて10:00右俣の進行にかかる。すぐに大岩が重なり、滝を形成し、F1 3mとなる。次いで右岸より小沢が入り、F2 10m 2段滝が現われる。下段は右岸を登って落口に立つ。上段も直登可能と思われたが、濡れたくないので、左岸の水のかからない所を小さく捲いて越える。

右俣に入って15分、大きな二俣となり、右俣には約50mの2段の大瀑が現われる。この滝を指して一里滝大瀑とよんでいるらしい。上部にあるF4と一緒に右岸を捲いて越える。

トイ状のナメを過ぎ、右岸からカレ沢、左岸から小沢を合わせると、二俣となる。左岸の方が水量も多いので、そちらにルートをとる。

すぐに2段のF5。一段目は右岸壁を登り、2段目は水しぶきをあびながら滝右を直登する。次にトイ状となったナメを越えると、もう地図上では読めない二俣となる。右俣はすぐ上に滝をかけているが、左俣をつめることに決める。

左俣にもすぐに滝が出てきた。15mくらいと思って滝を登りはじめたが、木村さんが不安だということなので、ザイルを出して確保に入ったら、たっぷり25mもあった。



この上はいよいよ源頭のようになり、水温もぐっと下がって冷たくなり、沢はヤブの中でいくつにも枝分かれしながら水を集めている。

12:15水流を離れてやぶこぎに入り、旭岳の東斜面のなだらかなブッシュ帯を1時間20分かかって、13:35登山道に出る。
(記)

[タイム] 一里滝沢出合(9:00)→二俣(9:45, 10:00)→一里滝大瀑(10:15)→源頭(12:15)→登山道(13:35)

山ノ記

一里滝沢左俣

1983年7月22日

L

天気曇り時々小雨。甲子温泉の手前から本谷ぞいに林道を歩き、一里滝沢出合の少し上で本谷に降り、少し下って出合に着く。

出合すぐF1 7mがかかり、右側から登る。するとすぐに小滝2つがあるが、何なくパス。続くF2 4m 2段滝は、下段を右側より直登する。上段は何なく越える。あとは平凡となった。

30分程歩いて右手から小沢が合流した所で小休止。この小沢の上流には60m程の3段の滝がもやの中に見えていた。近くまで見物に行く。

再び歩きはじめるとまもなく二俣。2条滝となって合流している。右側を直登して左俣に入る。するとすぐにまた二俣。右俣がナメとなっていることを確認してF4を直登して左に入る。その先にも二俣があり、ここも左に入る。

右岸がガレ場となっている所を過ぎると滝が連続して出てきた。まずF5 4mは軽く越える。次のF6は、初め直登を試みたが、クラックがもろく、はがれてくるので、左岸を捲く。続くF7は倒木ぞいにシャワーで左側を直登する。F8は、左側も捲懸想だったが、右側を捲く。F9は何なく越えた。ナメがしばらく続いてから、F10、F11が連続して現われる。どちらも軽くパス。

このあたりまでくると、沢もいよいよ終わりだという感じになる。小滝2つをパスすると、左右から小沢がいくつも合流するようになり、やがて水も少なくなって